

北海道をより元気にする!ドイツからのヒント



フュルスト・ビルギット・ビアンカ (Birgit Bianca Fürst)

ドイツのウルム出身。ベルリン自由大学で政治学修士課程と日本学マスター取得。1996年札幌国際プラザに国際交流員として来札。99～2001札幌市環境保全協議会・会長。2012環境教育をテーマにしたNPO法人設立。エネチェン支援塾活動。ドイツへのスタディツアー企画・同行。夫の観光農園・八剣山果樹園のエネルギーシフトに挑戦。環境カウンセラー。札幌市環境保全アドバイザー。北海道エコアカデミア・トレーナー。北海道環境保全技術協会・顧問。NPO八剣山エコケータリング代表。静修高校・非常勤講師。札幌市在住。

2015年11月、エネチェン支援塾^{*}のメンバーでエネルギー政策を学ぶ目的でドイツへ行きました。ドイツが取り組む100%自然エネルギーの社会づくり。「エネルギー効率を高める工夫」と「熱転換」がエネルギー転換を成功させる絶対条件です。寒い北海道にとって、参考になります。

エネルギー効率を高める「宝探し」

北海道で「省エネ」といえば、どこかで我慢が含まれる行動のイメージがあります。ドイツでは、その「我慢」がなく、いかに賢くエネルギーを使うかが重要です。無駄遣いを見つけ、エネルギーロスや過大な設定・運転を見直し、新しい技術を取り入れ、操作を替えるだけで省エネになります。ドイツ全国では、大企業のエネルギー監査が義務付けられ、中小企業向けのエネルギーコンサルティング事業、「エコプロフィット」が成功しています。訪問した事例ではミュンヘン市が委託した中立のコンサルタントの協力で、民間のホテルが、顧客へのサービスレベルを下げずに照明、暖房などを見直し、よりエコで経済的、快適な環境づくりをしていました。

「電気」よりも「熱」

北海道では、特に3.11以降の省エネといえば、電気ですが、ドイツは電気よりも「熱」に注目しています。例えば建物。エネルギーに関する法律的な規制が厳しくなる中、既存の建物のエネルギーリフォームに力を入れています。建物を買ったり、貸したりする場合、その建物のエネルギー消費量のわかる「エネルギーパスポート」が2008年から義務付けられました。このパスポートを発行できる人は、エネルギーアドバイザーの資格を取得した建築家やエンジニアです。その結果、熱エネルギーの意識が高まり、既存の

家のエネルギーリフォームに取り組む人が増えていきます。市民は各地方にできた「エネルギーエージェンシー」で、無料のエネルギー相談ができ、様々な補助金も受けられ、銀行にお金を預けるより建物に投資した方が有利だと思える人が多いほどです。具体的に断熱、三重窓、熱交換のある換気システムなどの工事で地域経済が活性化しています。ノイウルム市では戦後直後に簡単に作られた建物でさえ、パッシブハウス（無暖房住宅）を基準に持つ事例も見学しました。

地元の熱源で快適!

断熱性能の良い建物は、必要な暖房エネルギーが少なくなります。エネルギーの地産地消の発想で個人の住宅では太陽熱利用が普及しています。太陽熱で温水をつくりタンクに貯めます。熱が不足する場合は木質ペレットボイラーにより加温するハイブリッドシステムによって暖房・給湯し、エネルギー利用効率を高めています。エネルギーの地産地消に成功するバイオエネルギーの認定を得た村が、200か所を超える事実もあります。

“説教”より“説得”そして“納得”「エネルギーシューレ(エネルギー学校)」～行政とNPOの協力

子どもたちが体験から学ぶことを目指し、行政からNPOへエネルギー教育を委託しています。教え込むより自分で気づいて納得するエネルギー教育です。NPOが開発した教育プログラムをミュンヘン市立の学校で実施する事例報告を聞き、協力的な内容から学ぶことが多いと感じました。

太陽熱利用、建物のエネルギースタンダードを高めるエネルギーリフォーム活動、行政とNPOが協力し合うエネルギー教育活動の分野でドイツと北海道のエネルギー交流を続けたいと思います。

^{*} エネチェン支援塾
北海道のエネルギーシフトを目指して立ち上がる人を支援する地域団体。